

# ポラリスを仰ぐ北の大地から



## 3病院の今後のあり方

室蘭市医師会 会長 のじり しゅういち 野尻 秀一

室蘭市は今年開港150年、市制施行100年の節目を迎えます。しかし人口減少、少子高齢化の波が他の地域より速いスピードで進行しています。1970年（昭和45年）162,059人が2021年（令和3年）12月末で8万人割れし、今年4月末で79,200人です。このような中、この地域での地域医療構想と並行して、3病院（市立室蘭総合病院一般病床401床、日鋼記念病院479床、製鉄記念室蘭病院347床）のあり方の協議会が2018年（平成30年）9月から2020年（令和2年）2月まで12回行われ「第2次中間とりまとめ」が示され、「高度急性期を担う医療機関を東室蘭に、回復期・慢性期・在宅医療・介護を中心とした医療機関を蘭西地域に確保する。市立病院は地方独立行政法人への移行も含め、経営改善に努力する。」ことで合意がなされましたが、新型コロナウイルス感染症の蔓延により協議会は開催されず、今年2月凍結となりました。問題は①市立病院の債務超過及び病院企業会計への16億円／年の拠出、公立病院改革プラン策定の遅れ、②医師の医育大学から地方への医師派遣の集約化など多々あります。現在市立病院は4月に病院管理者も交代し監査法人トーマツの助言に基づき院内改革中であります。一方製鉄記念室蘭病院は高度急性期に特化し、初期臨床研修医も25名（2021年（令和3年）度）在籍し、道内トップクラスを維持しています。日鋼記念病院は4月に院長交代し、急性期、緩和ケア、在宅医療等幅広い医療活動をしています。しかし、2025年（令和7年）はもうすぐそこです。この地域住民の健康を守り、ひいては西胆振という2次医療圏の医療を維持していくため俯瞰的な観点から3病院には考えていただき、当医師会としても潤滑油として、将来の地域住民の安心できる医療体制の確保に向けて議論を進めていきたいと思っています。



## 近況報告

胆振西部医師会 会長 つば しゅんすけ 坪 俊輔

コロナ禍での3回目の春を迎えました。近況に関しては前回投稿時と比べて大きな変化はありません。5月末現在、当胆振西部地区での新型コロナウイルス感染状況はやや頭打ちか・若干減少傾向か？といった状態で、未だ老人施設や医療機関でのクラスターが散発しており関係する皆様方のご苦勞は絶えません。当院でも職員一同感染防止に充分気をつけながら診療にあたっております。当医師会では、4回目のコロナワクチン接種に向けて、集団接種や老人施設への訪問接種の協力体制を準備中です。本年2月に、私が嘱託医をしている当地の老人施設で新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生しました。なにせ築40年を越える建物でゾーニング等もままならず、発生当初は今後どうなるのかと暗澹たる気持ちでございましたが、伊達赤十字病院のご協力や室蘭保健所のご指導等で死亡者を出さずに入所者・職員合わせて約100人中なんとか17人の罹患で収束し、ほっと胸を撫で下ろした事を思い出します。もうひとつウクライナ危機、政治的な深い意味合いはわかりませんが、とにかく早く終結してほしい。何か世界中がざわざわと落ち着かなくなっているようで心配です。

ところでプライベートなことでは、趣味の釣りですが、コロナ感染症の関係で釣り場でも入釣制限があったりでなにかゆっくりできずに出掛ける気もせず、ここ2年間はまったく釣行なしです。今年はぜひ再開といきたいところです。もうひとつの趣味・囲碁の方ですが、碁会所でアクリル板を挟んでまで打つ気にもなれずに、もっぱら巣籠もり状態でのネット碁に終始しています。年齢と共に集中力、忍耐力、計算力が落ちてただでさえ勝率が低下傾向なのに加え、一杯飲みながらの酒気帯び対局なものですから、負け越しが続き悪戦苦闘中です。ひとつ楽しみといえば可愛い孫娘が一年生になり、自分の背中より大きなランドセルを背負って元気に通学していることです。孫娘の成長が今の最大の楽しみです。

最後に新型コロナウイルス感染症の一日も早い収束を目指して、皆さんもうひと頑張りしましょう。